

# 松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

## 感謝とともに・・・明日へ



あの積雪から日を重ね、春一番とともに桜開花の便りが届きました。

本年度もあと残すところ、1週間あまりとなりました。

園・学校を巣立った子どもたちも、進級する子どもたちも、そして、私たちも、それぞれが新たなスタートに向けての春を迎えようとしています。

以前、松阪教育支援センター「鈴の森教室」で出会い、ともに過ごしたふたりが、センターを訪ねてきてくれました。「中学生の時は、あれほど人と会うのがつらかった私が、今は多くの人と出会えることが楽しくって・・・」と話すAさんの姿は、また、「自分が不登校だったことで、わかることもあるから」と学生ボランティアとして、子どもたちの支援に協力してくれるBさんの姿は、私にはまぶしいほどでした。二人とも、やわらかいすてきな笑顔で、当時の自分を振り返っていました。苦しいとき、「だいじょうぶだよ」と寄り添ってくれる人がそばにいてくれることが、自分の小さな一歩を支えてくれることをふたりは知っています。私は、当時、ふたりの「明日」をどれだけ信じて支援していたのか、考えさせられる時間でもありました。

最近、「明日」(角川書店 佐倉 淳一さん著)という本を紹介してもらいました。

発達障がいについて、本人、家族、学校、関係機関等それぞれの立場からの視点で書かれている小説です。この小説はフィクションなのですが、起きる出来事はまさしく、今、学校で起こっていることだと思うのです。その中で、「『明日』はできるようになる、『明日』になったらぼくは良い子になる、『明日』はきっと良い子になる・・・」と、翔太少年の「明日」にかける想いが、訴えかけてきます。

また、成人した男性との出会いから、父の「彼を見ているとわが子の『明日』を見ているようで・・・」という想いが、わが子の「『明日』を本当に明るくて良い日にしたかったら……『明日』は自分の力で変えられるんだって」と話すことばに自分自身も・・・と変化していきます。簡単なことではないのですが、変わろうと思えるってすてきなことです。

「明日」に向かう出発点・・・今日がその日なのかもしれません。明日がその日なのかもしれません。そう感じさせてくれる一冊でした。

この一年、子ども支援研究センターの活動にご協力、ご支援をいただき、本当にありがとうございました。人とのつながりで支えられることを実感する日々でした。

平成26年度事業も、より充実した内容でご提供できるよう計画、準備を進めています。ぜひ活用していただき、「明日」からの子どもたちの豊かな学びに、心の成長につなげていただくことができれば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

最後までセンターだよりをお読みくださり、ありがとうございました。



(古戸 陽子)

## \* 子支研 研究集録をご活用ください \*

市内の小学校のご協力のもと、2人の長期研修員が研究したものをまとめた研究集録を各園・学校に送付させていただきました。どうぞご活用ください。

(当センターに予備がありますので、個人的に必要な方はご連絡ください。)



### 郷土の偉人に学ぶ授業づくりⅢ

#### —「大谷嘉兵衛」に学ぶ—

研究集録 第125集

(長期研修員 中西 祐司)

核家族化、少子高齢化の進行など、松阪市においても、地域への愛着や帰属意識の希薄化、地域共同体の弱体化にまでつながるような事象が表面化しているように感じられます。その中であって、地域を守っていこうとする心や、地域に貢献しようとする態度を養うことの重要性はますます高まるように思えます。

松阪市教育委員会は、「郷土の偉人」に学ぶ教育を実践するなかで、偉人たちの「夢」への営みを学ばせ、郷土に誇りと愛着を持ち、未来を切り拓いていくことができる児童の育成を図ることを推進しています。

本研究では郷土の偉人として、製茶貿易で活躍した大谷嘉兵衛を取り上げました。人の道とは何かを考え、実践した、その生き方を児童に出会わせたいと考えたからです。市内いずれの学校においても大谷嘉兵衛を取り上げた授業実践ができるようにするため、大谷嘉兵衛の生き方を伝記として教材化し、それを活用した授業づくりについて研究を行いました。「郷土の偉人に学ぶ」学習を進める際の指導資料として、活用いただければ幸いです。

### 松阪の良さを知り、発信する力を高める指導法の研究

#### —観光に視点をあてた授業を通して— 研究集録 第126集

(長期研修員 澤村 直樹)

今日、インターネットの普及にともない、ソーシャルメディアの利用が急激に増加しています。ソーシャルメディアは、利用者同士が情報を発信し合いつながるといふ、従来とは異なる特徴を持っています。この特徴から、表現上の誤解によるトラブル、スマートフォン上でのネットいじめ、問題行動の拡散などの新たな問題が生じています。今はまだソーシャルメディアの利用が少ない小学生も、今後、高い割合で利用していくことが予想されます。そこで、従来の情報モラルの指導だけではなく、発信する力をつける学習が必要であると考えます。

本研究では、第4学年、第6学年の総合的な学習の時間において、ソーシャルメディアで発信する活動を行うことで、媒体に応じた発信があることを理解し、効果的な発信を考えることができる授業について考察しました。また、発信する情報を「松阪の観光資源」とし、観光の視点から新たな松阪の良さを知り、郷土に誇りと愛着を持てる授業についても考察しました。それぞれの学級で、指導資料として、活用していただければ幸いです。

